

第2回審議会(11/26)からの基本構想骨子案意見対応表

部会	頁	ご意見	事務局の考え	対応	
第2章 総合計画策定の背景 第4節 河内長野市の主な課題					
1	審議会	18	「3. 安全で安心なまちづくり」について3行目「本市は大きな災害に遭遇していない…」とあるが、この間の台風で2軒つぶれている。滝畑でも過去に被害があった。災害に遭っていないと言いきってよいか疑問。災害がないことを強調しても意味がない。大きな災害の基準をどう考えるか。	災害がまったくないという意味ではないが、他のまちと比べて、地震や津波などの被害は想定されづらいことは言えると考えている。ご指摘の通り、集中豪雨や台風などはどこで発生するかわからないため、市の高まっている災害リスクに対応する備えが出来ている、安全に対して意識をしている積極的な都市としていくなどの表現を検討する。	「本市では、市域の大半を占める山間部、丘陵部においては、台風や集中豪雨による土砂災害等への対応が課題となっており、地域主体による自主防災組織の活動など、災害対策への意識が高まっていますが、」と修正した。
2	審議会	18,19	大阪全体をみると、河内長野市の特徴として開発団地が多いこと。「1. 急速な人口減少と…」において「開発団地を多くかかえる本市では」という表現がある方が良いのではないか。また、緑が多い、歴史・文化などの魅力があるので「5. 地域の連携による…」で記載はあるが、少しさみしいので文化財や緑も踏まえた内容になると良いと考える。	ご意見も踏まえて、課題の中で市の特徴が現れるように表現の追加を検討する。開発団地という表現については、誤解のないように検討する。	「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」に、「昭和40年代に開発された住宅団地を多く抱える本市では、人口急増期に」を追加した。
3	審議会	19	「5. 地域の連携による産業の振興」に地域ブランド、6次産業を入れた方がよい。2行目「農・林・商・工・観光の連携を図るとともに…」を「連携して6次産業化を図る」としてはどうか。	6次産業化がすべてではないため、特徴的な部分として6次産業化を目指しながら、産業の推進を図ることについて検討する。	「関係団体や市民とも連携しながら、6次産業化も含めて、生産、消費、雇用などの経済活動が」と追加した。
4	審議会	19	「5. 地域の連携による…」の下から2行目、働きやすい環境づくりだけで支援になるのか、もう少し積極的にしてもよいのではないか。	環境づくり以外の支援についても必要であるため、表現を追加する。	「多様な人材の活用に対する企業への支援を行っていく必要があります。」と追加した。
5	審議会	20	「8. 市民主体の…」の2行目、「地域のつながりの希薄化が予想される中で」とあるがそうは感じない。地域で自分たちで動こうとしているところもある。自治会やボランティアなど一部活発に活動しているところはあるが、全体からみたらどうか。「希薄化」という文言がよいかどうかはあるが、十分とは言えない。	すべての地域で活発に活動されているところまでとはいっておらず、市全体としては自治会加入率の低下もあり、社会潮流にもあるように、希薄化は全国的な傾向でもある。ただし、十分ではないが、活動の芽は出ているといった意見も踏まえ、表現の変更を行う。	「希薄化が予想され」を「希薄化が懸念され」に変更した。
6	審議会	20	「8. 市民主体の…」について、地域のつながりはまちづくりをしている年齢層の高い方が中心となっていて、子育て世代はつながりが感じられないと聞く。高齢者や子どもには比較的スポットが当たるが、その間の世代、また、子育てをしている人だけでなく、子どものいない方、単身の方などいるので、そのような方が地域で活躍できるような視点も必要。	世代間、居住歴などを踏まえた地域のつながりについて表現を検討する。	特に若い世代の参加を強調したいので、「特に若い世代を含め、」としつつ、様々な立場の人の参加を基本としたいことから「誰もが地域社会への参加できる」とした。

7	審議会	20	「10. 自立した行政運営…」について、市民からみればすでに自立していると思うが、何かから自立するのか、その理由があるのか、内容は分かるが表現を変えてもよいのではないか。	安定した財政運営など、市としての自立性を高めるという意味で、何かから自立するという意味ではないため、誤解のないように本文中で表現する。	「10. 健全で効率的な行政運営と広域連携の推進」と変更した。
8	審議会	20	「10. 自立した行政運営…」の広域的な連携については行政だけでなく、民間同士の連携のイメージも持たせた方がよいと考える。 →10に入れるのか、8または5に入れるか	「5. 地域の連携による産業の振興」の中で、民間同士の広域的な連携に関する記載を追加する。	「5. 地域の連携による産業の振興」の中に、「また、こうした産業間の連携は、市域を超えた広域的な拡がりにより、さらなる相乗効果を生むことが期待されます。」を追加した。
9	審議会	20	「10. 自立した行政運営…」について経済、観光等は頑張っていると思う。むしろ交通アクセスや医療などを先に持つてくることがよいのではないのか。	ここでは行政運営全般に係ることを記載しており、交通や医療については、「2」「6」等で記載している。	「10. 自立した行政運営…」の中で、「経済、観光、文化、交通、医療等の幅広い分野において、」を追加した。
第4章 将来人口と都市空間づくりの考え方 第1節 将来人口					
10	審議会	資料4 23	根本的になぜ10万人をめざすかは書かれていない。ある程度の人口を保たないと行政の効率が悪くなる、行政運営に不都合が生じるなどの理由になるのか。 仮に人口が96,000人になったとき、市民は何も感じないと思う。96,000人の何が悪いのか、目標を掲げる意義をわかるようにするとともに、市民への意識づけを行い目標を設定する必要がある。	市民の皆さまにも共有してもらえるよう、10万人を維持する意義について再度検討する。	「これらの取組みにより、人口減少をできるかぎり抑制し、これまでに整備してきたインフラの有効活用や、高次な都市機能を維持するための一定の基準として、平成37年度末における定住人口の想定を100,000人と設定します。」を追加した。
11	審議会	23	人口推計の目標について、ネガティブなものとなっているが、目標とするのならポジティブなものでなくてはならないのでは。「歯止め」や「想定」などとしてはどうか。	人口減少を抑制するという考え方であり、それを目標とすることで違和感を与えるのであれば、「想定人口」などに変更する。	「想定人口」に変更を行った。
12	審議会	23	具体的な部分では現実とは異なってくるが、イメージの部分で熟年都市という方向で人口が減っても、心豊かで洗練された成熟した都市というイメージを打ち出せるとよいのではないかと。心豊かな人が住めるまちという目標にしてはどうか。	まちづくり全体のイメージとして記載する	第3章第1節のまちづくりの基本理念に「成熟」を追加
13	審議会	23	これまでは12万人を対象としてインフラ整備が進められてきた。減少するとそれが無駄になる。10万人を切ると、なだらかに減少してしまう。オール河内長野市として、いかに10万人をキープするかが重要。大阪府でみたときに住みやすい地域なのか、河内長野市から転出する人が多い。若者に住んでもらえるまちにしていかなければならない。人口が減少していくと利便性が損なわれていくなどを示し、10万人を皆で支えるといった説明が必要である。	市民の皆さまにも共有してもらえるよう、10万人を維持する意義について再度検討する。	「これらの取組みにより、人口減少をできるかぎり抑制し、これまでに整備してきたインフラの有効活用や、高次な都市機能を維持するための一定の基準として、平成37年度末における定住人口の想定を100,000人と設定します。」を追加した。

14	審議会	23	10万人は高い目標である。出て行く人を半分に減らす、かつ出生率を上げる、かつ長生きしてもらわなければならない。その中で出生率は重要である。今、子どもを増やさないと人口は減少する一方であるので目標10万人は重要となるので、市民に分かりやすく知らせることが大切である。	子どもを増やすという観点を強調する。	「特に若い世代の定住や転入の促進を図るため、子どもを産み育てる環境の充実、」として、出生を促進する環境づくりについても文言を追加した。
15	審議会	23	25～39歳の転出がみられるのでその層の転出を防いで転入を増やさなければならない。	定住促進、転入促進については、その年代層をターゲットとして、施策を展開したいと考えており、雇用や子育て支援の面での充実等を図っていきたい。	「特に若い世代の定住や転入の促進を図るため、子どもを産み育てる環境の充実、」の文章において表現している。
第4章 将来人口と都市空間づくりの考え方 第2節 都市空間の基本的な考え方					
16	審議会	24	「1. 将来の都市空間づくりの方向性」について現状、課題、解決の内容が記載されていると思うが、現状が甘く書かれている。生活の利便性があればこのように若い人が転出していかないと、買い物難民の問題も解消されるのではないか。	本市が発展してきた経緯を踏まえて記載しているため、良好な住宅都市としての性質を持ったまちであることを基本としている。しかし、近年では、それだけでは人を呼び込めない状況になっており、ご指摘の通り、課題として現状を厳しく捉える面も追加したい。	「今後、人口減少と少子・高齢化が進む中、道路や公共交通の充実や、地域コミュニティの活性化、買い物支援などへの対応が求められており、」と追記した。
17	審議会	24	地域での雇用の創出は重要である。「3. 都市空間づくりの目標」で雇用の問題が出てこないの記載が必要ではないか。	「(3)地域の活力を創出する」の中での記載を検討する。	「産業の活性化や様々な交流を創出します」に意味合いを込めている。
18	審議会	24	「3. 都市空間づくりの目標」の(1)について3駅を拠点とするとあるが、美加の台は無人駅になった。千早口や天見など山間部の駅もある。表現の仕方に配慮が必要である。山間部は買い物難民など様々な問題があるので配慮していることにふれることが必要ではないかと思う。	生活圏の記載の充実を検討する。	「市民の生活が営まれる「生活圏」や自然豊かな山間部においては、地域ごとの自立をめざし、市民が生活を営むために不可欠な機能の確保を図りながら、それぞれが持つ地域資源や特色を活かしたまちづくりを進めていきます。」を追加。
19	審議会	24	買い物難民の問題などで、市場で成り立たないものを成り立たせるためには、民間とのタイアップや生活圏での生活を確保するための施策に取り組んでいくことになる。	生活圏の記載の充実を検討する。	
20	審議会	24	河内長野市は自動車社会で、運転できれば便利であるが、運転できなくなると住み続けられるか不安がある。公共交通は大きな課題であり、アンケート調査でも公共交通は早急な対応が求められている。デマンドや福祉タクシーなど小さな公共交通をどのように考えるか、免許を返納した後の交通も課題がある。	「3. 都市空間づくりの目標」の(1)でふれているが、大きな課題として捉えるため表現を追加する。	「「拠点」「生活圏」「広域」を結ぶ道路や公共交通など市内外における交通機能の充実や人、モノ、情報などの交流などによる多様なネットワーク化を図り、」と内容の追加を行った。
21	審議会	24	交通と土地利用の整合、コンパクトシティの考え方、交通基盤のあり方についても記載しないといけない。	「2. 河内長野市におけるコンパクトシティのあり方」で交通に関する記載の追加を検討する。	「「拠点と生活圏」「生活圏同士」「広域連携」など、道路や公共交通などの交通基盤、人的資源や地域のつながりを含めた、人、モノ、情報の交流が行われるネットワークを形成」を追加した。

22	審議会	24	「3. 都市空間づくりの目標」の(2)の、道路・橋梁に限らず、水道管、下水管などのインフラ設備について計画的かつ適正な維持管理を推進することが簡単にできるように感じるが、莫大な費用もかかるため、言いきってよいか不安である。管轄している担当と表現について検討した方が良いのではないかと思う。	課題としては取り組まなければならないことであるため、表現については検討を行う。	「生活インフラなどの長寿命化を含めた計画的な維持管理を図るとともに、人口減少時代に対応した適正な機能の確保や配置に努めます。」との表現とした。
23	審議会	24	河内長野市の大部分は森林、山間部であることについて入れてほしい。都市環境だけでなく観光に来てもらうための山間部のあり方などについてどうしていくかはどこかしらに入れてほしい。	「(3)地域の活力を創出する」の中での記載を検討する。	「市域の大半を占める森林や中山間地域の農地については、生産の場としてのみならず、市民の憩いの場としての有効活用を図り、」とした。
24	審議会	24	都市空間づくりの目標に5つの谷など、もう少し静脈型の、環境インフラについても記載すべき。	「(3)地域の活力を創出する」の中での記載を検討する。	
25	正副部会長打合	24	河内長野、千代田駅、三日市を拠点にすることに関して厳しい意見が出ていた。言い方を変更した方がよい。見捨てられたような感じを受ける。	周辺地域については、「生活圏」の中に含んでいるものとしていたが、誤解のないように表現の変更等を検討する。	「「生活圏」や自然豊かな山間部においては、地域ごとの自立をめざし、市民が生活を営むために不可欠な機能の確保を図りながら、それぞれが持つ地域資源や特色を活かしたまちづくりを進めていきます。」とした。
26	正副部会長打合	24	市街地の話ばかりになっているが、山や農地の管理をどうするかといった視点が欠けている。自然環境の保全、それを活かした展開、災害面も含めて書いていかなければならない。	「(3)地域の活力を創出する」の中で、「森林や農空間の保全・活用」等の表現に追加する。災害面については、「(2)安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」で追加する。	「森林や農空間の保全・活用を図るための土地利用」「災害に強いまちづくりや治山・治水、」の記述を追加した。
27	正副部会長打合	24	川を中心に物流から道路へ、電車が走ることで公共交通を中心に変遷してきたものが、今後は道路中心に戻っていく。人がどのように移動しなければならないか、公共交通だけでなくルートが重要になる。	交通の記載については「道路や公共交通」と併記する。	「「拠点」「生活圏」「広域」を結ぶ道路や公共交通など市内外における交通機能の充実や」と内容の追加を行った。
28	正副部会長打合	24	「成熟」についてどこかに入れるべきではないか。人口、都市空間などすべてに関わってくる。	「成熟」という表現を追加する。	第3章第1節のまちづくりの基本理念に追加
29	正副部会長打合	24	都市機能の再構築については、「都市空間の基本的な考え方」の3-(1)-3つ目や(2)の2つ目など、橋梁や公共建築物など、ストックの再編、維持管理をまとめてしまってもよい。	ご意見を踏まえて、都市機能については、「(2)安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」にまとめて記載する。	「(2)安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」にまとめて記載した。